

1. コラム「論点提起」：メタバースの意義と可能性や如何

最近、「メタバース」(Meta-verse)という言葉が頻出している。その定義はいまだ定かでないが、大略、インターネット上の仮想空間にアバター(自分の分身)で参加し、種々の活動を行なえるバーチャル社会経済空間で、さらにはリアル社会経済空間とも融合・一体化するまさにメタバースな社会経済空間と云えるのではなかろうか。今後の技術・サービスの進化に応じて定義は変化する。日本は定義好きだが、急速に興り、拡大する概念に精密な定義はむしろ有害である。

メタバースは物理的/空間的、身体的/精神的制約を超えて、リアル社会空間とバーチャル社会空間を行き来しながら各種の活動/サービスをストレスフリーに行えるところに特徴がある。この新たな感覚・体験は、かつて、石井威望先生(医学から工学に転じたシステム工学者)から教えていただいた「人類が宇宙へ飛び出し、宇宙から撮られた地球を、地球にいる人類が見て、宇宙から発想することを獲得したことは歴史的な視座の転換、スコープの拡大をもたらし、爆発的な知の創発につながった」という話を想起させる。それと同じような感覚をリアル空間とバーチャル空間が融合する体験はもたらす。現在進行中のメタバースの勃興はそういう歴史的レベルの事が起きているのかもしれない。いま戦後二度目の大きな視座の転換点に立っている。

こうした流れの中で、Facebook が社名を「メタ」(正式には、Meta Platforms)に変更した。メタの真意は、他社(特に、Apple)にメタバースのプラットフォームを握られたくないとのことのようにあるが、いずれにしても、メタバースへの投資・開発競争が激化している。あの東京大学さえも「メタバース工学部」と銘打ったオンライン教育プログラムを開始すると発表した。

資料：本当の新社名は「メタ」でない、プラットフォームになれなかった Facebook の悲願 日経クロステック 2021.11.12 <https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00692/111100068/?P=2>
東大が「メタバース工学部」設立、工学の魅力を発信 2022.07.25 MoguraVR <https://www.moguravr.com/tokyo-univ-foe-metaverse-2/>

現時点においては、完全なストレスフリーまでに至らず、社会としての仕組みづくりも途上にあるが、その根源には、多様な個々の「人」の尊厳を護り、心身の状態や地理的位置に関係なく、考え、表現し、動くことを可能化ならしめると云うことがあるのではと料する。

例えば、社会的孤立・孤独に追い込まれている方々が、メタバース空間なら、社会的な参加がしやすくなるのではなかろうか。本当の声(真意)も出しやすくなるのではなかろうか。それは、リアル社会への参加につながる可能性を秘めている。さらには、障がい者の方々も、メタバース空間においてなら、ストレスフリーに動け、声も発信できるようになるのではなかろうか。加えて、メタバースは地理的位置に依らないため、全世界のどこにいても、当然、日本のどこにいても、多言語翻訳技術やブロックチェーン技術等を介して、世界のリアル&バーチャルな社会経済活動空間と繋がれる。それは世界の「個」の人が等しく繋がれることを意味する。

単なる目先のビジネス価値を超え、そして特定の企業プラットフォームを超え、個々の「人」としての根源的価値向上に迫るメタバースであって欲しいが、果たしてどこまで迫れるか如何。